

あいほら やすのぶ
相原 康伸

輝かしい2019年に向けて

●連合・事務局長

明けましておめでとうございます。

本年も輝かしい1年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

さて、皆様にとり、昨年はどうのような1年となられたでしょうか。私が、印象に残った出来事を振り返りつつ、この晴れやかな年明けをさらなる希望につなげたいと思います。

一つ目は、自然災害の多発化と広域化、そして、重大化を挙げたいと思います。多くの方々を巻き込み、時に犠牲を、そして、長期にわたる不自由な生活をもたらす自然災害。そこには、都市、地方の隔てはありません。これは、日本列島に、また、そこに暮らす私たちに与えられた天命と受止めざるを得ないでしょうか。猛威を振るう自然の脅威だったとしても、人知をもって一人でも多くの命を守り、社会に与える衝撃を少しでも和らげるため、ソフト、ハード、ネットワーク、技術革新など、あらゆる資源を総動員し、より一層、事前の対処に備えねばなりません。

本年、日本が議長国となるG20においても、自然災害がアジェンダの一つとして検討されていることは既に報道の通りです。この間の私たちの多くの教訓とそこから学んだ私たちの知見を全て形にし、世界の共通のものとして昇華すること、そして、反対に、優れ

た世界の知見を謙虚に学び私たちの日々に活かす場としても、世界の首脳が集まる場とそこから生まれるメッセージに注目したいと思います。

二つ目は、国際政治の動向です。米国と北朝鮮のトップ同士が直接、顔を合わせるなど、過去には想定し得なかった映像がメディアを通じて世界を駆け巡りました。一方、長きにわたる戦争の歴史に終止符を打つべく期待され、その糸口を掴んだかに見えた冷戦構造の終焉でしたが、それもつかの間、今私たちは、米中の「貿易戦争」に代表される自国第一主義の拡がりに晒されています。とりもなおさず、分断構造の進展は、国際社会に暗い影を落としており、事実、昨年末のアジア太平洋経済協力会議（APEC）では、この間、「保護主義と貿易を歪める手段と闘う」と盛り込んできた首脳宣言の取りまとめに至ることさえ出来ませんでした。その後、アルゼンチンで行われた昨年末のG20でも、「保護主義と闘う」としてきた重要な共通メッセージを世界に向けて発信するに至らなかったことも記憶に新しいところです。

対話と協調を基礎に置く多国主義は、時に、多大なエネルギーと時間を要するものです。だからと言って、それを回避し、各国が自らの主張を振りかざすだけの国際政治を許せば、



極端な論調が、より極端な論調を呼び、人々の心をより不安定なもの、そして、自分だけ良ければ良いのだという社会に人心を誘ってしまいかねません。取り返しのつかない事態を引き起こしかねない前に、各国のトップリーダーの態度を決定づける、各国の健全な世論と連帯が、民主主義の危機を救う唯一無二の手段であることを確認し合わねばなりません。

三つ目は、世界の働く仲間の連帯です。国際政治の背景とすべき重要な一つにその国ごとの世論があることは先に述べた通りです。そして、世界の経済を形づくるもう一つの源泉は、国は異なっても働くものが生み出した製品、サービスを公正に評価される社会の確立だと思います。その意味では、米中がそれぞれの輸出品目に照準を定め、高い関税で射抜く報復の応酬は、両国間のみならず、世界の緊張を高めるには十分すぎます。なにより、働く者が生み出した価値をターゲットにして、国際政治のディールの道具に用いられることに違和感のみならず、嫌悪を覚えるのは決して私だけではないはずです。

余りにも行き過ぎたコスト競争が「race to the bottom」（底辺に向けた競争）を招くことは周知の事実ですが、覇権を巡る経済闘争が、懸命に働く仲間が生み出した結晶を傷

つけていることにもより敏感でなければなりません。

さて、日本国内に目を転じれば、データの信ぴょう性に多くの疑問符がついたことを思い出される方も少なくないと思います。四点目は、障がい者の雇用実績に関わるデータ、医大の合格率を巡る男女間の格差など、重視されるべき「現実」が軽んじられ、当たり前としてきた過去の踏襲が、現実の社会においていかなる意味を持つのかについて、余りにも無頓着すぎる点です。私たちが承知せぬ間に、そうした社会が静かに拡がっていることに強い懸念を持たざるを得ません。

一夜にして「信頼」は喪失するものです。だからこそ、日々、確実に信頼を積みあげる努力により光が当たって然るべきです。そして、そこには必ず働く人の姿があります。私たちには、その働く姿を世の中に発信していく努力が求められています。やや遠回りになりましたが、その意味では、労調協が日々、現実を追う姿は、より一層、社会的な意義をもつものと確信致します。

労調協の各事業に対するご理解とご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。